



茅ヶ崎市教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果・分析

教科に関する調査

小学校

国語

平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
66.8	66	65	

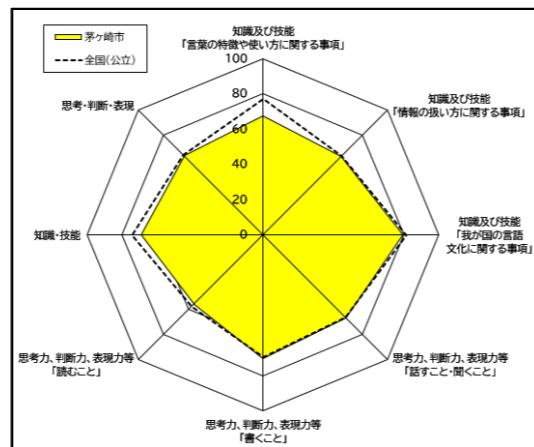
○領域別の知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の正答率は、全国とほぼ同程度です。

○記述式の自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の正答率は、全国と同程度です。

●知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、主に漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られます。（「好み」、「暑い」を漢字にする設問）

【学習に当たって】

漢字を「書くこと」については、当該学年の前の学年に配当されている漢字を、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるとともに、当該学年に配当されている漢字については、学習したものから、順次、文や文章の中で使うようになります。（国立教育政策研究所報告書を参考）



算数

平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
58.0	59	57	

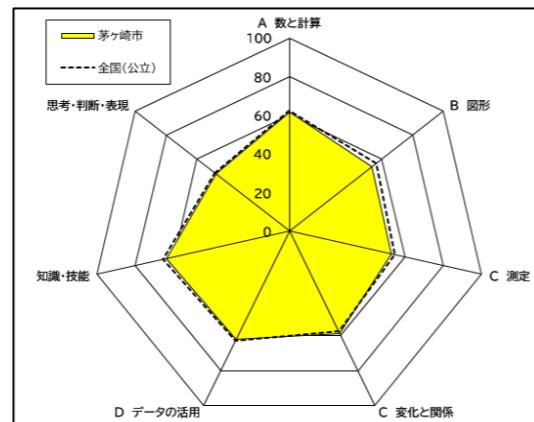
○「A 数と計算」など4つの領域についての正答率は、全国とほぼ同程度です。

○伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす設問の正答率は、全国と同程度ですが、理解度は比較的高いです。

●領域「B 図形」における台形の意味や性質についての理解にやや課題が見られます。（5つの図形から台形を選ぶ設問）

【学習に当たって】

図形の学習では、形をよく見て特徴を捉えたり、実際につくるて確かめたりする活動を通して、図形を構成する要素（辺・角など）とその関係に着目して考える力を育てることが大切です。そのため、辺の長さ・角の大きさ・平行や垂直といった位置関係に着目し、図形のつくり方を考えたり、性質を基に図形を分類・判別したりできるようにすることが大切です。（国立教育政策研究所報告書を参考）



理科

平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
57.1	57	57	

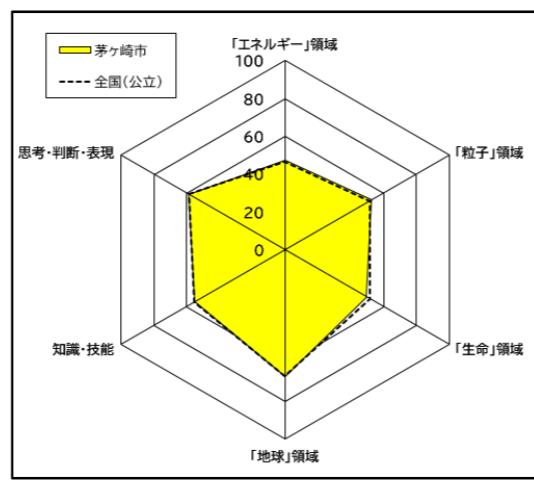
○「エネルギー」など4つの領域についての正答率は、全国とほぼ同程度です。

○温度によって水の状態が変化するという知識を根拠に、温暖化等によって海面水位が上昇する理由を問う設問の正答率は、全国平均をやや上回っています。

●領域「生命」におけるハチマの花のつくりや受粉についての知識の定着に課題が見られます。

【学習に当たって】

理科では、科学的な言葉を使って説明することが大切です。例えば、花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせておしゃべりやしひべの部位と名称を説明したり、複数の種類の花を観察し、その共通点としておしゃべりやしひべを見つけたりする学習が大切です。また、受粉について調べる実験を行う際には、受粉という科学的な言葉を使しながら説明したり、学習のまとめをしたりすることが大切です。（国立教育政策研究所報告書を参考）



● 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 対象学年と教科

小学校第6学年(国語・算数・理科)、中学校第3学年(国語・数学・理科)

● 実施日

令和7年4月17日(木)（※中学校理科は4月14日～17日の間でICT端末を用いて実施）



中学校

国語

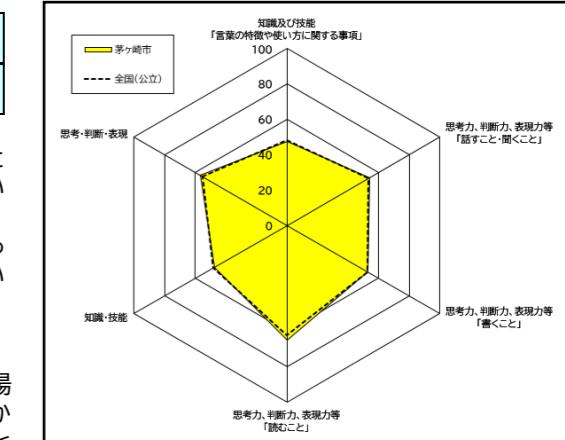
平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
54.3	55	55	

○知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関する各領域の正答率は、全国とほぼ同程度です。その中で、「読むこと」の領域は、全国平均をやや上回っています。

●思考力・判断力・表現力等における「書くこと」について、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題が見られます。（漢字の間違いを修正する設問：専問的→専門的）

【学習に当たって】

書いた文章を見直す際に、伝えようとすることが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整えること、日頃から書いた文章を読み返す習慣を身に付けるとともに、読み返す際には、既習の事項を生かして文章を整えることが大切です。（国立教育政策研究所報告書を参考）



数学

平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
48.3	51	51	

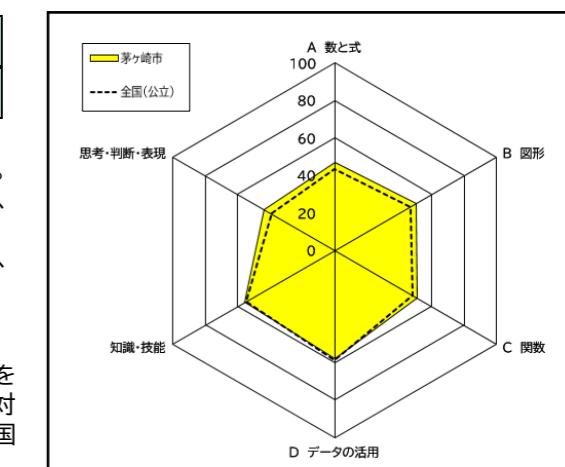
○「A 数と式」「B 図形」「C 関数」の領域は、全国平均をやや上回っています。

○領域「B 図形」における、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善できるかを問う設問では、全国平均を上回っています。

●領域「D データの活用」において、相対度数の意味の理解に関する設問では、やや課題が見られます。

【学習に当たって】

ある階級の度数が、全体に占める割合を求めて、データの分布などの特徴を読み取る活動や、大きさの異なる2つ以上の集団を比較する活動を通して、相対度数を用いることの必要性と意味を理解できるようにすることが大切です。（国立教育政策研究所報告書を参考）



理科

平均IRTスコア	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
503	510	515	

※IRTスコア: IRT(項目反応理論)に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点で表すもの。

※公開問題と非公開問題を組み合わせて構成。公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題がある。同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解く。

○実施日によって問題は異なるものの、全国の平均正答率と比較すると、領域「エネルギー」、「粒子」、「生命」はほぼ同程度であり、領域「地球」は上回っています。

○気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかを問う設問では、全国平均を大幅に上回っています。

●領域「生命」における植物の茎の横断面や根の構造に関する設問では、全国平均を下回っています。

【学習に当たって】

身近な植物の外部形態や内部形態の観察を行い、観察記録などに基づき、共通点や相違点があることを見いだし、植物の体の基本的なつくりを理解することが大切です。身近な双子葉類と単子葉類の外部形態である根や葉のつくりと、内部形態である茎の断面のつくりを観察し、それらの特徴を捉えるとともに、葉から茎の断面や根のつくりを推測できるようにすることが大切です。（国立教育政策研究所報告書を参考）



質問調査(抜粋)

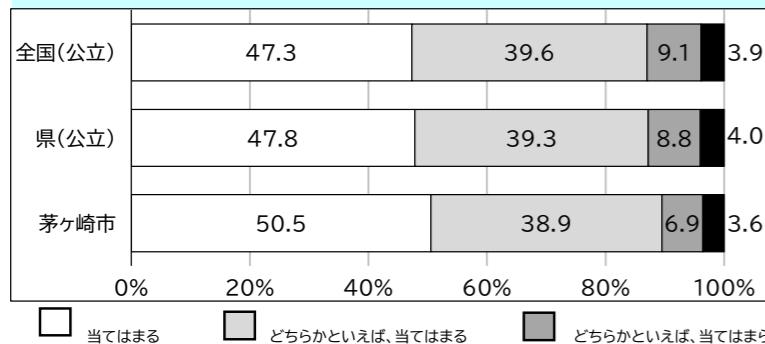
小学校

中学校

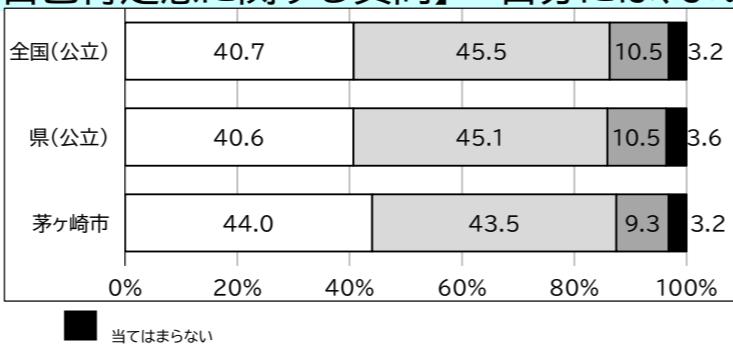
茅ヶ崎市教育委員会 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果・分析

◆発行：茅ヶ崎市教育委員会教育総務部教育センター

◆発行日：令和7年12月18日

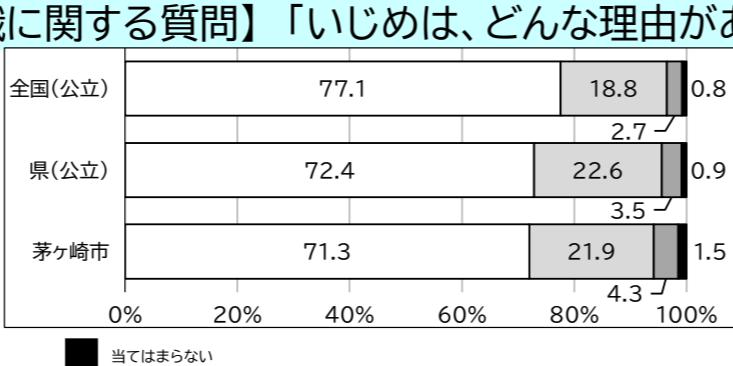
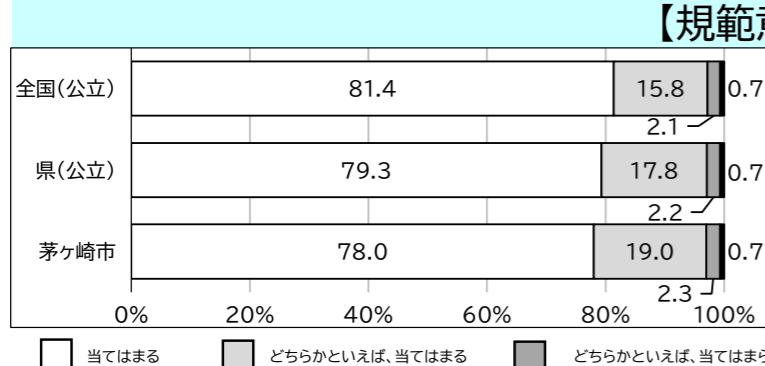


【自己肯定感に関する質問】「自分には、よいところがあると思いますか」



各教科とのクロス集計	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科
当てはまる	50.7	67.2	60.0	59.5
どちらかといえば、当てはまる	38.9	64.7	55.4	56.1
どちらかといえば、当てはまらない	6.8	59.6	49.9	50.3
当てはまらない	3.5	59.5	52.9	51.9

自己肯定感は、他者を目標とする中で、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感などによって育まれる側面と、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる側面があります。教育関係職員を含め、子どもに関わる大人は、2つの側面から自己肯定感を捉え直すとともに、他者との関わりを通じて自己肯定感が育まれることを踏まえ、大人自身も自己肯定感を持って子どもと接することが大切です。



各教科とのクロス集計	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科
当てはまる	77.7	65.5	57.3	57.2
どちらかといえば、当てはまる	19.2	67.0	58.0	59.1
どちらかといえば、当てはまらない	2.4	53.7	49.6	46.3
当てはまらない	0.7	62.8	54.0	52.5

いじめは「どんな理由があってもいけない」ことについて、否定的な回答が見られます。どんな理由があってもいじめはいけないことについての理解を深めさせる指導が重要です。いじめをしない、させない子どもを育てるために、子どもの小さなサインを見過ごすことのないよう、学校・家庭・地域が連携を図り、見守っていくことが重要です。

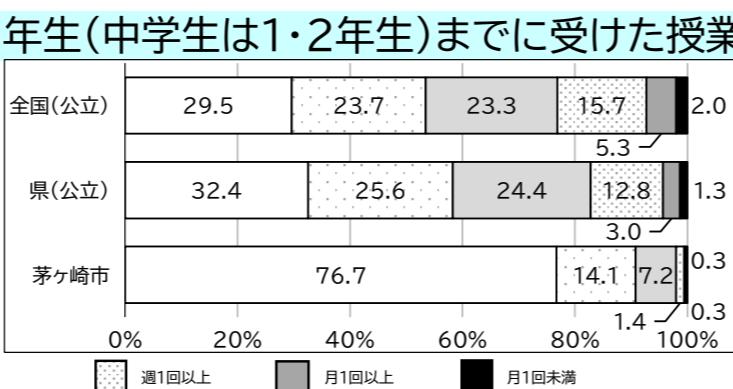
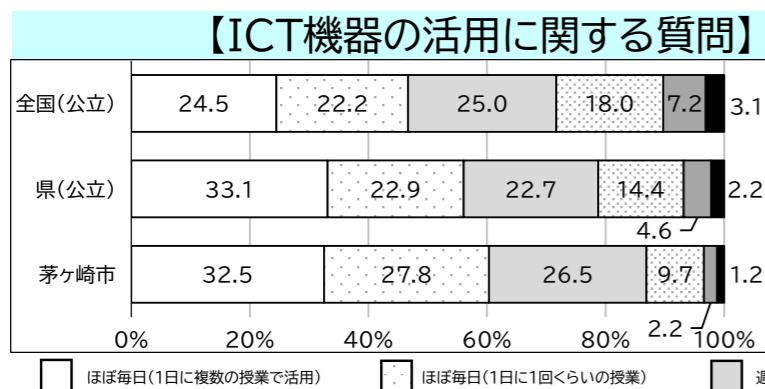


◆いじめ防止に関するトピック

茅ヶ崎市いじめ防止対策調査会答申URL(学校教育指導課所管) <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/1021695.html>

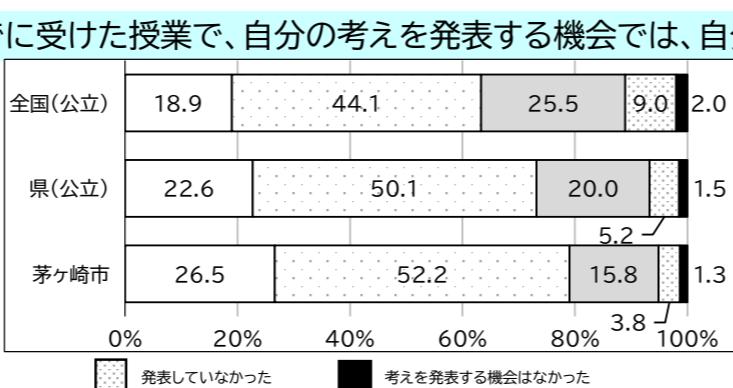
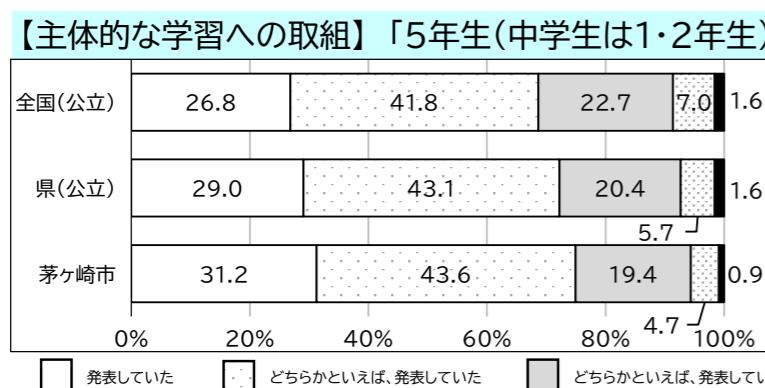
◆「いじめ防止リーフレット」

◆「もし、子どもがいじめられたら／いじめたら」など



各教科とのクロス集計	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科
ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	32.4	68.2	59.7	59.8
ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	27.9	66.0	57.7	57.9
週3回以上	26.6	64.0	56.8	56.1
週1回以上	9.6	63.7	54.5	54.3
月1回以上	2.1	56.1	44.1	47.3
月1回未満	1.3	42.5	38.8	41.7

本市の1人1台端末の授業での活用頻度は、全国・県よりも高く、学習内容の理解の深まりや、子ども同士が考えを交流する場面に広がりが見られます。また、1人1台端末を家庭に持ち帰って活用することで、時間的・空間的な制約を超えた個別最適な学びの充実につながります。今後も1人1台端末の活用に際しては、学校と家庭が連携しながら、使う時間や場所、使い方などのメディアリテラシーを身に付ける機会を持つことが大切です。



各教科とのクロス集計	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科
発表していた	31.4	71.1	63.7	62.6
どちらかといえば、発表していた	43.6	64.8	57.0	57.5
どちらかといえば、発表していなかった	19.3	61.0	51.2	51.1
発表していなかった	4.6	57.6	47.1	47.9
考えを発表する機会はなかった	0.9	41.2	28.7	40.5

授業における様々な発表などの機会を通して、獲得した知識や技能を再現するだけではなく、それらの活用を図しながら、目的に応じた表現方法、論理的な思考力と構成力、相手意識などについて試行錯誤しながら学習に取り組んでいる様子が見られます。また、コミュニケーションについては、発信力・表現力だけでなく、相手の考え方への感受力・共感力を高めていくことも重要であるため、学校・家庭・地域では、大人も子どものより良いモデルとしてコミュニケーションの在り方を見直すことが大切です。



*教科調査と質問調査時の児童・生徒数が異なることから、クロス集計との児童・生徒数の割合は一致していない場合があります。

*質問調査における無回答の数値は表記していません。